



中川 翔子

1985年生まれ、東京都出身。2002年芸能界デビュー。歌手・タレント・声優・女優・イラストレーターなど、活動は多岐に渡る。「ウチくる!？」などを始め多数のバラエティ番組にも出演。2020年のオリンピックに向けた「マスコット選考検討会議」のメンバーへ選出。音楽活動では、コンサートツアーなどを精力的に行い、2009年には初の武道館公演を敢行。アジアでのコンサートツアーも数年にわたり行い、その人気は海外にも広がっている。2015年・2016年にはディナーショーを敢行、兩年ともチケットは即完となった。2015年にNHK朝の連続テレビ小説「まれ」にレギュラー出演。2016年には、初舞台となるミュージカル「ブラック メリーポピンズ」「ドラゴンクエスト ライブベクターツアー」にて、それぞれヒロイン役として出演し、5月にはシアターコクーンにて開催の妄想歌謡劇「上を下へのジレッタ」(原作:手塚治虫、脚本・演出:倉本裕、音楽:宮川彬良)にヒロインとして出演予定。

渋谷ファッションウィーク アンバサダー 中川翔子さんが語る

“MADE IN SHIBUYA”

私にとって「ファッション」は、個性と雰囲気と自由と好きを形にしたもの。「私はこういう人」だと印象づけるための大事な装備です。ちょっとしたコーディネートの違いで印象が大きく変わると思うと、やっぱりファッションの持つパワーや面白さを感じます。今では「mmts」というブランドをプロデュースさせていただくなど、ファッションで私らしいスタイルを持つようになりました。「渋谷」は日本で最も新しさに溢れた街として、若者から大人、海外の人達まで、どんな世代やジャンルの人でも引き寄せてしまう力があります。そして多くの人にとって「初めて」を体験した場所ではないでしょうか。私も例外ではなく、「お洒落に目覚める最初の場所」として渋谷から大きく影響を受けました。

初めてSHIBUYA109でお買い物をした時の衝撃や興奮は今でも忘れられません。

大人になった今も渋谷によく遊びに行きます。何歳になっても「まずは渋谷」から。

渋谷ほど常に新しく、変化し続け、そして私たちの変化を受け入れてくれる街はないと思います。

今回、渋谷ファッションウィークのアンバサダーという大役に戸惑いつつも、非常に嬉しく思っています。これまで、渋谷から影響を受けて自分が変化してきた気がしていますし、30歳を超えて自分の中で色んな変化も感じています。そんなタイミングで渋谷に関われるのは、何か縁のようなものを感じます。

私にとってファッションの原点である渋谷で、3月24日(金)はランウェイを歩きます。

流行もミックスしながら、渋谷から影響を受けて確立した「私らしさ」を表現したいと思っています。

ご期待ください!